

2013 年 5 月 10 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 長谷川 弘

スリランカ国 新ケラニ橋周辺交通改善事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2013 年 4 月 8 日(月) 13:58～16:57
- ・場所：JICA 本部(会議室：1 階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、清水谷委員、高橋委員、長谷川委員、松下委員、柳委員
- ・議題：スリランカ国新ケラニ橋周辺交通改善事業協力準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) スリランカ国 新ケラニ橋周辺交通改善事業協力準備調査 環境社会配慮助言委員会 事前配布資料
 - 2) 住民移転範囲図
 - 3) 新ケラニ橋フォトモニタージュ
 - 4) 第一回ステークホルダー協議速報(Attachment-List of Participantsを含む)
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 36 回委員会)

- ・日時：2013 年 5 月 10 日(金) 14:30～17:38
- ・場所：JICA 本部(会議室：2 階 229 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. コロンボ市中心市街地における渋滞緩和のため現在策定中の都市交通マスタープランとの整合性を取ること。また、公共交通の整備等により、コロンボ市内通過交通の減少や道路交通量の軽減の取り組みを JICA からスリランカ側に働きかけることが望ましい。
2. 当該案件にかかわる交通量について、車種別交通量も含めた予測を行うこと。

代替案の検討

3. 全体調査スケジュールに示されたように、環境社会配慮面からのルート代替案比較検討を事前配布資料表 8-1 (想定されるルート代替案の比較結果) の段階で終了し、代替路線 B のみを EIA 対象とする根拠を明記すること。

スコーピングマトリックス

4. 景観への影響について、樹木の伐採による影響を検討項目とすること。
5. 供用時の騒音対策として、クラクション音を削減する道路交通対策を行うよう、提言すること。
6. 既往資料から過去の洪水データを収集し、当該橋梁への洪水の影響について検討すること。
7. 事業に使用される資材の調達先や調達方法に関して、把握しておくこと。
8. 伐採予定の樹木の利用の実態 (共有資源の有無など) を把握し、必要な場合は同一樹木の復元について言及すること。

環境配慮

9. 予測・評価手法も可能な限りスコーピング段階で具体的に検討すること。
10. 泥炭地域でのモンスーン期における工事による工事土砂および土壌流出と水質汚濁について、その影響と対策を検討すること。

社会配慮

11. 住民移転の範囲を明示すること。
12. 当該国における類似工事の事例を分析したうえで、児童労働について、調査項目に入れるか否か検討すること。

ステークホルダー協議・情報公開

13. ステークホルダー会議をスコーピング段階と EIA 報告書作成の段階で行うとすることから、スコーピング段階での参加者のみならず、住民移転対象者および周辺住民には、報告書段階でも協議参加が可能なような広報手段を行うこと。
14. 第 1 回ステークホルダー会議の内容 (目次、参加者、属性、質問および応答) について表を作成すること。
15. 第 1 回ステークホルダー会議の結果を社会配慮の検討に反映させること。

その他

16. 現地法制度と JICA ガイドラインの相違点において、スコーピング実施主体、TOR との関係、代替案の取り扱い等、「スコーピング」についての相違点も明記すること。

以 上